

1. $(A | E)$ など を , 左半分が単位行列になるように基本変形したとき , 右半分に残る行列が逆行列である .

$$A^{-1} = \begin{pmatrix} 5 & -7 \\ -2 & 3 \end{pmatrix} \quad B^{-1} = \frac{1}{7} \begin{pmatrix} 1 & -6 & 16 \\ 1 & 1 & 2 \\ -1 & -1 & 5 \end{pmatrix} \quad C^{-1} = \begin{pmatrix} 0 & 0 & 0 & -1 \\ 1 & 0 & 0 & 0 \\ 1 & 0 & 1 & 0 \\ 0 & -1 & 0 & -1 \end{pmatrix}$$

2. (1) は $A \begin{pmatrix} x \\ y \end{pmatrix} = \begin{pmatrix} 1 \\ 2 \end{pmatrix}$ だから $\begin{pmatrix} x \\ y \end{pmatrix} = A^{-1} \begin{pmatrix} 1 \\ 2 \end{pmatrix} = \begin{pmatrix} -9 \\ 4 \end{pmatrix}$.

(2) は $B \begin{pmatrix} x \\ y \\ z \end{pmatrix} = \begin{pmatrix} -2 \\ 0 \\ 1 \end{pmatrix}$ だから $\begin{pmatrix} x \\ y \\ z \end{pmatrix} = B^{-1} \begin{pmatrix} -2 \\ 0 \\ 1 \end{pmatrix} = \begin{pmatrix} 2 \\ 0 \\ 1 \end{pmatrix}$.

3. A を階段行列にするような基本変形を表す $m \times m$ 正則行列を P とする . つまり , PA は $m \times n$ の階段行列とする .

- (1) $\text{rank } A = n$ なら (被約) 階段行列 PA は次のような形にまで変形できることがわかる :

$$PA = \begin{pmatrix} * & & & & \\ & * & & & \\ & & \ddots & & \\ & & & & * \\ \hline 0 & 0 & \dots & 0 & \end{pmatrix}$$

「対角成分」はいずれも 0 ではない . もとの方程式の両辺に P を左からかけると

$$PA \begin{pmatrix} x_1 \\ \vdots \\ x_n \end{pmatrix} = \mathbf{0} \quad (*)$$

であるが , この式からただちに $x_1 = \dots = x_n = 0$ がわかる .

- (2) $\text{rank } A = k$ とおく . $k < n$ なら ,

$$PA = \begin{pmatrix} * & * & \dots & * & * & \dots & * \\ & * & \dots & * & * & \dots & * \\ & & & \ddots & * & * & \dots & * \\ & & & & * & * & \dots & * \\ \hline 0 & 0 & \dots & 0 & 0 & \dots & 0 \end{pmatrix}$$

という形で , 0 でないかもしれないのは上から k 行目まで . (*) は k 個の方程式からなる連立方程式になるが , k 番目の式は x_{n-k}, \dots, x_n の式 . このうち x_{n-k+1}, \dots, x_n を適

当な変数 t_1, \dots, t_k でおきかえれば, x_{n-k} はこれらの変数で表される. それをひとつ前の式に代入し, ... と繰り返せば, 解は変数 t_1, \dots, t_k を使って表される. 変数の値は何でもよいので, 解は無数に存在し, その中には自明でないものも含まれる.